



● 草の根パートナー型

平成19年度 採択内定案件

I. 提案事業の概要	
1. 国名	パレスチナ
2. 事業名	パレスチナ暫定自治区ヨルダン川西岸地区トバス県における環境保全型節水農業に基づくオリーブの品質向上と収入増加による安定した地域社会の構築
3. 事業の背景と必要性	事業対象地のヨルダン川西岸地区トバス県は、農業従事者が労働者全体の約4割を占め、主要農産物はオリーブである。同県は乾燥気候で年間降水量は平均350mm程度であり、農業用水は天水に依存しているが、その気候や降水量に適した農法が採用されておらず、自然条件により収穫量が左右されている。またオリーブ製品は主要輸出品であるが、国際市場でのパレスチナオリーブ製品に関するマーケティング不足や、生産コストの上昇等により、オリーブ農家の収入は不安定である。上記問題は本年7月に当会がヨルダンで開催し、パレスチナ農家も参加したワークショップでも確認されている。この状況を打開し、安定した地域社会を構築するためには、オリーブ等農産物の安定した収穫と製品の品質向上、パレスチナ域外への販路拡大による収入増を図ることが必要不可欠である。
4. 事業の目的	環境保全型節水農業等によるオリーブ製品の品質向上と周辺地域との経済的ネットワーク形成による国際市場への販路拡大を図り、西岸地区トバスの農家の経済的自立を支援し、地域社会の安定化を目指す。
5. 対象地域	ヨルダン川西岸地区トバス県
6. 受益者層	トバス県6ヶ村（約750世帯、人口約3,750人）のオリーブ農家
7. 活動及び期待される成果	<p>成果1：環境保全型節水農業等による高品質オリーブオイル等の生産</p> <p>活動1：対象農家等の主体的参加によるワークショップを中心に、専門家によるパーマカルチャー農法（PC農法）の土壌改善技術、ウォーターキャッチメント農法、害虫対策法、間作、植林等の技術移転を行い良質のオリーブを生産する。加えてオリーブの収穫・搬出指導や、搾油工場の製造過程の調査・改善、ボトリング・ラベリング技術の調査・開発等を通じてオイル製造工程の改善を行う。</p> <p>成果2：パレスチナ域外マーケットへの進出</p> <p>活動2：パレスチナ域外への輸出を支援しているNGO・団体との協力体制を構築し、それら団体からの情報収集等によりパレスチナでの製造品を域外に輸出している企業の調査を行う。また、パレスチナ域外における見本市・品評会へのオリーブ製品等の出品や、域外のオリーブオイル協会が主催するワークショップへの参画等、域外への販売へ向けたとのネットワークづくりを積極的に行う。</p> <p>成果3：パレスチナとその周辺地域のオリーブ関係者が交流する機会の増加</p> <p>活動3：上記活動のような、農家とパレスチナ域内・域外団体との協働活動の機会を多く設ける。</p>
8. 実施期間	2008年4月～2010年10月（2年7ヶ月）
9. 事業費	50,000千円（予定）
10. 事業の実施体制	NICCOパレスチナ事務所が実施責任団体となり、ワーキンググループ（農業組合、現地NGO、現地専門家、現地住民）が中心となって住民参加型事業を行う。また、NICCO本部および日本人専門家がサポートを行い、パレスチナ農業省のトバス県担当者とは緊密な連携を行う。なお、現地での緊急事態の際には、すみやかに現地協力団体及び、JICA現地事務所、現地日本大使館と連絡を取り合い、派遣人員の心身の安全を第一とし、行動する。
II. 応募団体の概要	
1. 団体名	社団法人 日本国際民間協力会（NICCO）
2. 活動内容	環境保全活動、無農薬・有機節水農法の普及、コミュニティ開発、資機材銀行の運営、教育、保健医療、技術・資材供与、職業訓練、緊急援助等